

**IBM Rational Developer for System z  
9.0.1**

## **前提条件ガイド**





**IBM Rational Developer for System z  
9.0.1**

## **前提条件ガイド**



**お願い**

本書をご使用になる前に、25 ページの『IBM Rational Developer for System z についての特記事項』に記載されている全体的な情報をお読みください。

本書は、IBM Rational Developer for System z バージョン 9.0.1 (プログラム番号 5724-T07) および、新しい版で明記されていない限り、これ以降のすべてのリリースおよびモディフィケーションに適用されます。

IBM は、お客様が提供するいかなる情報も、お客様に対してなんら義務も負うことのない、自ら適切と信ずる方法で、使用もしくは配布することができるものとします。

お客様の環境によっては、資料中の円記号がバックスラッシュと表示されたり、バックスラッシュが円記号と表示されたりする場合があります。

原典： SC23-7659-11

IBM Rational Developer for System z

9.0.1

Prerequisites Guide

発行： 日本アイ・ピー・エム株式会社

担当： トランスレーション・サービス・センター

第12版第1刷 2013.11

© Copyright IBM Corporation 2000, 2013.

# 目次

本書について . . . . .	v
本書の対象読者 . . . . .	v

## IBM Rational Developer for System z 前提条件ガイド . . . . . 1

前提条件および相互必要条件 . . . . .	3
概説 . . . . .	3
ワークステーションの必要条件 . . . . .	3
ハードウェア要件 . . . . .	3
ワークステーションの前提条件 . . . . .	4
オペレーティング・システム . . . . .	4
開発用ホスト環境/仮想化サポート . . . . .	5
ワークステーションの相互必要条件 . . . . .	5
DB2 Connect . . . . .	5
Rational Team Concert . . . . .	6
Web ブラウザー . . . . .	6
Adobe Acrobat Reader . . . . .	6
File Manager . . . . .	6
Fault Analyzer . . . . .	7
ユーザー特権の要件 . . . . .	7
z/OS ホストの必要条件 . . . . .	7
z/OS ホストの前提条件 . . . . .	7
z/OS . . . . .	7
SMP/E . . . . .	10
SDK for z/OS Java Platform, Technology Edition . . . . .	11
z/OS ホストの相互必要条件 . . . . .	11
z/OS . . . . .	12
COBOL コンパイラー . . . . .	16
PL/I コンパイラー . . . . .	17

Debug Tool for z/OS . . . . .	17
CICS Transaction Server . . . . .	18
IMS . . . . .	19
DB2 for z/OS . . . . .	20
Rational Team Concert . . . . .	21
File Manager . . . . .	21
REXX . . . . .	21
Ported Tools . . . . .	21
Ant . . . . .	22
Endevor . . . . .	22
z/OS Automated Unit Testing Framework . . . . .	22
IMS 同期コールアウトの COBOL トップダウン . . . . .	22
AIX、Linux on System z、および Intel Linux ホストの前提条件 . . . . .	23
AIX ホストの前提条件 . . . . .	23
Linux on System z ホストの前提条件 . . . . .	23
Linux on System z . . . . .	23
SDK for Linux on System z, Java Platform, Enterprise Edition . . . . .	23
Intel Linux ホストの前提条件 . . . . .	24
Intel Linux . . . . .	24
SDK for Linux on Intel, Java Platform, Enterprise Edition . . . . .	24

## IBM Rational Developer for System z についての特記事項 . . . . . 25

著作権使用許諾 . . . . .	27
商標の帰属表示 . . . . .	28

## 索引 . . . . . 29



---

## 本書について

本書では、IBM® Rational® Developer for System z® バージョン 9.0.1 の前提条件および相互必要条件について説明します。本書では、以下の名前が使用されます。

- IBM Rational Developer for System z は、Developer for System z と表しています。
- Software Configuration and Library Manager Developer Toolkit は、SCLM Developer Toolkit と表しています。
- z/OS® UNIX System Services は、z/OS UNIX と表しています。

以前のリリース (IBM WebSphere® Developer for System z、IBM WebSphere Developer for zSeries、IBM WebSphere Studio Enterprise Developer など) に関しては、それらのリリースの資料に記載されている必要条件の情報を使用してください。

---

## 本書の対象読者

本書は、IBM Rational Developer for System z バージョン 9.0.1 をシステムにインストールして構成するシステム設計者およびシステム管理者を対象としています。本書には、Developer for System z が機能するために、インストールして作動可能にしておく必要がある前提ソフトウェアをリストしています。また、Developer for System z の特定の機能をサポートするための相互必要条件ソフトウェアのリストも記載しています。これらの必要条件となるものが、実行時にインストール済みで作動可能になっていないと、対応するフィーチャーは設計どおりに機能しません。





---

# IBM Rational Developer for System z 前提条件ガイド



---

## 前提条件および相互必要条件

---

### 概説

本書は、以下のセクションで構成されています。

- 『ワークステーションの必要条件』
- 7 ページの『z/OS ホストの必要条件』

---

### ワークステーションの必要条件

IBM Rational Developer for System z (Developer for System z) は、大規模ビジネス・アプリケーションを作成するユーザーをサポートするためのライセンス・プログラムです。

このソフトウェアを使用するには、前提条件と相互必要条件があります。

ここに記載しているものが、最新のクライアントの前提条件および相互必要条件のリストであり、「IBM Rational Developer for System z インストール・ガイド」にリストされている要件に取って代わるものです。

本書の公開時点では、このセクションにリストされている製品はすべて入手可能です。特定の IBM 製品に関連する Developer for System z 機能を使用する必要がある場合は、IBM Software Support Lifecycle Web サイト (<http://www.ibm.com/software/support/lifecycle/>) を参照して、その製品がまだ入手可能かどうかを確認してください。

最新の前提条件および相互必要条件のリストは、「*Developer for System z 前提条件ガイド*」(SC88-4704) に記載されています。この資料は、IBM Rational Developer for System z の Web サイトのライブラリー・ページ (<http://www-01.ibm.com/software/rational/products/developer/systemz/library/>) から入手可能であり、本書にリストされている要件に取って代わるものです。

### ハードウェア要件

製品をインストールするためのハード・ディスクの最小スペース所要量に対応していることを確認します。インストール・プロセスの段階ごとのスペース所要量を次の表に示します。

ハードウェア	要件
プロセッサ	<ul style="list-style-type: none"><li>• 最小: 32 ビット (x86) Core2 duo (または同等)</li><li>• 推奨: 64 ビット (x64) Core2 quad (または同等)</li></ul>
メモリー	<ul style="list-style-type: none"><li>• 最小: 3 GB RAM</li><li>• 推奨: 4 GB RAM</li></ul>

ハードウェア	要件
ディスク・スペース	<ul style="list-style-type: none"> <li>最小: 1.5 GB</li> <li>推奨: 2 GB - 5 GB。Rational Developer for System z の構成およびインストールされた他のバンドル・ソフトウェアによる。</li> </ul> <p>注: ソリッド・ステート・ドライブ (SSDs) であれば、パフォーマンスがさらに改善される可能性があります。</p>
ディスプレイ	1024 x 768 の解像度  推奨: 1280 x 1024

## ワークステーションの前提条件

製品をインストールする前に、システムがソフトウェア要件を満たしているかを確認してください。

### オペレーティング・システム

以下のオペレーティング・システムがこの製品でサポートされています。

製品名	32 ビット	64 ビット	必要な PTF またはサービス・レベル
Microsoft Windows XP Professional	はい	いいえ	Service Pack 3 以降
Microsoft Windows Server 2008 R2 Enterprise Edition	いいえ	はい	Service Pack 1 以降
Microsoft Windows Server 2008 R2 Standard Edition	いいえ	はい	Service Pack 1 以降
Microsoft Windows Server 2012 Datacenter Edition	いいえ	はい	有効なすべてのサービスを推奨
Microsoft Windows Server 2012 Essentials Edition	いいえ	はい	有効なすべてのサービスを推奨
Microsoft Windows Server 2012 Standard Edition	いいえ	はい	有効なすべてのサービスを推奨
Microsoft Windows 7 Professional Edition	はい	はい	Service Pack 1 以降
Microsoft Windows 7 Enterprise Edition	はい	はい	Service Pack 1 以降
Microsoft Windows 7 Ultimate Edition	はい	はい	Service Pack 1 以降
Microsoft Windows 8 Professional Edition	はい	はい	有効なすべてのサービスを推奨
Microsoft Windows 8 Enterprise Edition	はい	はい	有効なすべてのサービスを推奨
Red Hat Linux Desktop v 6.0	はい	はい	有効なすべてのサービスを推奨
Red Hat Linux Enterprise Server v 6.0	はい	はい	有効なすべてのサービスを推奨
SUSE Linux Enterprise Server v 11.0	はい	はい	有効なすべてのサービスを推奨

製品名	32 ビット	64 ビット	必要な PTF またはサービス・レベル
SUSE Linux Enterprise Desktop v 11.0	はい	はい	有効なすべてのサービスを推奨
Ubuntu v 12.04 LTS	はい	はい	有効なすべてのサービスを推奨

**注:**

1. Developer for System z 言語サポートは、上記のオペレーティング・システムが基本的な言語をサポートしていることに依存します。
2. Red Hat 6.0 の 64 ビット版に 32 ビット・モードの Developer for System z をインストールするには、以下のパッケージ (32 ビット・ライブラリー) が必要です。
  - libgtk-x11-2.0.so.0
  - libpk-gtk-module.so
  - libcanberra-gtk-module.so
  - xulrunner.i686

## 開発用ホスト環境/仮想化サポート

製品名	バージョン	必要な PTF またはサービス・レベル
Citrix®	XenApp 6.0	使用可能なすべてのメンテナンス
VMware®	vSphere 4.1 ESXi および vSphere 5 ESXi	使用可能なすべてのメンテナンス

仮想化環境で使用する IBM SWG 製品のソフトウェア・サポート・サービスの詳細については、「VMware 環境における IBM SWG 製品に対するソフトウェア・サポート (Software support for IBM SWG products in a VMware environment)」を参照してください。

## ワークステーションの相互必要条件

インストールすることを選択した Developer for System z の機能によっては、インストールの相互必要条件として、このセクションにリストしているソフトウェアをインストールすることが Developer for System z には必要です。

**注:** サポートされるデータベース・サーバー、Web アプリケーション・サーバー、およびその他のソフトウェア製品については、オンライン・ヘルプを参照してください。

### DB2 Connect

組み込み SQL ステートメントを使用するアプリケーションをサポートするには、以下のいずれか 1 つのレベルがインストールされている必要があります。

プログラム 番号	製品名	必要な PTF またはサービス・レベル
5724-B56	DB2 <sup>®</sup> Connect Personal Edition v 10.1	
5724-B55	DB2 Connect <sup>™</sup> Personal Edition v 9.7	

関連製品の Web サイトは次のとおりです。

<http://www-01.ibm.com/software/data/db2/linux-unix-windows/>

## Rational Team Concert

Developer for System z リモート・プロジェクトを使用して Jazz ベースのソース制御を行うには、以下のレベルがインストールされている必要があります。

プログラム 番号	製品名	必要な PTF またはサービス・レベル
5724-V04	Rational Team Concert <sup>™</sup> Client for Eclipse 4.2.x IDE v 4.0.3 以上	

関連製品の Web サイトは次のとおりです。

<http://www-01.ibm.com/software/rational/products/rtc/>

## Web ブラウザー

README ファイルとインストール・ガイドを表示するには、以下の Web ブラウザーのいずれかがインストールされている必要があります。

製品名	必要な PTF またはサービス・レベル
Microsoft Internet Explorer 8.0 以降	使用可能なすべてのメンテナンス
Firefox 10.0 以降	使用可能なすべてのメンテナンス

## Adobe Acrobat Reader

製品資料 PDF を正しく表示するには、以下のソフトウェアがインストールされている必要があります。

製品名	必要な PTF またはサービス・レベル
Adobe Acrobat Reader Version 7.0 以降	使用可能なすべてのメンテナンス

## File Manager

IBM File Manager plug-in for Eclipse は、Rational Developer for System z とは別に使用可能です。

File Manager サービスを利用するために、Developer for System z クライアントは、IBM File Manager plug-in for Eclipse に依存します。plug-in を Developer for System z にインストールする方法、および IBM File Manager サーバーのバージョンの前提条件と相互必要条件の最新情報については、

<http://www-01.ibm.com/support/docview.wss?uid=swg24033351>

を参照してください。

## Fault Analyzer

IBM Fault Analyzer plug-in for Eclipse は、Rational Developer for System z とは別に使用可能です。

Developer for System z クライアントは、Fault Analyzer サービスを使用するために、IBM Fault Analyzer plug-in for Eclipse に依存します。plug-in を Developer for System z にインストールする方法については、

<http://www-01.ibm.com/support/docview.wss?uid=swg24033351>

を参照してください。

## ユーザー特権の要件

IBM Rational Developer for System z をインストールするには、以下の要件を満たすユーザー ID が必要です。

- ユーザー ID に 2 バイト文字が含まれていない。
- システムのすべてのユーザーに対しインストールする場合は、管理者グループに属する ID が必要です。管理者特権がない場合、現行ユーザーに対してしかインストールできません。

---

## z/OS ホストの必要条件

本書の公開時点では、このセクションにリストされている製品はすべて入手可能です。特定の IBM 製品に関連する Developer for System z 機能を使用する必要がある場合は、IBM Software Support Lifecycle Web サイト (<http://www.ibm.com/software/support/lifecycle/>) を参照して、その製品がまだ入手可能かどうかを確認してください。

最新の前提条件および相互必要条件のリストは、「*Developer for System z 前提条件ガイド*」(SC88-4704) に記載されています。この資料は、IBM Rational Developer for System z の Web サイトのライブラリー・ページ (<http://www-01.ibm.com/software/rational/products/developer/systemz/library/>) から入手可能であり、本書にリストされている要件に取って代わるものです。

## z/OS ホストの前提条件

IBM Rational Developer for System z を使用するには、適切な前提条件を満たした以下の環境が必要です。

### z/OS

ホストに以下のいずれかのレベルがインストールされている必要があります。

プログラム番号	製品名	必要な PTF またはサービス・レベル
5650-ZOS	z/OS v 2.1	<ul style="list-style-type: none"><li>• APAR OA42204 (TSO/ISPF クライアント・ゲートウェイ)</li><li>PTF UA69294</li></ul>

プログラム 番号	製品名	必要な PTF またはサービス・レベル
5694-A01	z/OS v 1.13	ISPF: <ul style="list-style-type: none"> <li>• APAR OA39666 (TSO/ISPF クライアント・ゲートウェイ) PTF UA65910</li> <li>• APAR OA43014 (TSO/ISPF クライアント・ゲートウェイ)</li> </ul> TCP/IP: <ul style="list-style-type: none"> <li>• APAR PM63379 (分散型動的 VIPA) PTF UK78754</li> </ul>
5694-A01	z/OS v 1.12	ISPF: <ul style="list-style-type: none"> <li>• APAR OA39666 (TSO/ISPF クライアント・ゲートウェイ) PTF UA65909</li> <li>• APAR OA43014 (TSO/ISPF クライアント・ゲートウェイ)</li> </ul> TCP/IP: <ul style="list-style-type: none"> <li>• APAR PM63379 (分散型動的 VIPA) PTF UK78755</li> </ul>
5694-A01	z/OS v 1.11	ISPF: <ul style="list-style-type: none"> <li>• APAR OA38740 (TSO/ISPF クライアント・ゲートウェイ) PTF UA65382</li> </ul> TCP/IP: <ul style="list-style-type: none"> <li>• なし</li> </ul>
5694-A01	z/OS v 1.10	ISPF: <ul style="list-style-type: none"> <li>• APAR OA38740 (TSO/ISPF クライアント・ゲートウェイ) PTF UA65381</li> </ul> TCP/IP: <ul style="list-style-type: none"> <li>• APAR PK74282 (CSM 固定ストレージの容量増加) PTF UK41810</li> </ul>



プログラム 番号	製品名	必要な PTF またはサービス・レベル
5694-A01	z/OS v 1.9	ISPF: <ul style="list-style-type: none"> <li>               APAR OA29489 (TSO/ISPF クライアント・ゲートウェイ)                PTF UA51687             </li> </ul> TCP/IP: <ul style="list-style-type: none"> <li>               APAR PK74282 (CSM 固定ストレージの容量増加)                PTF UK41812             </li> </ul>
5694-A01	z/OS v 1.8	ISPF: <ul style="list-style-type: none"> <li>               APAR OA20345 (ネストされたコマンドの出力)                PTF UA33575             </li> <li>               APAR OA20449 (NESTMACS サポートの追加)                PTF UA34052             </li> <li>               APAR OA29489 (TSO/ISPF クライアント・ゲートウェイ)                PTF UA51686             </li> </ul> TCP/IP: <ul style="list-style-type: none"> <li>               APAR PK74282 (CSM 固定ストレージの容量増加)                PTF UK41811             </li> </ul>

関連製品の Web サイトは次のとおりです。

<http://www-03.ibm.com/systems/z/os/zos/>

**注:**

1. ISPF APAR AA42204 は、Rational Developer for System z TSO 機能の動作を妨げている z/OS 2.1 の既知の問題を解決します。Rational Developer for System z を z/OS 2.1 にインストールしている場合は、この APAR を適用してください。
2. z/OS UNIX サブプロジェクトまたは RSE z/OS UNIX オブジェクトに対するリモート (ホスト・ベースの) アクションを行うには、REXEC または SSH の z/OS UNIX バージョンがホスト上でアクティブになっている必要があります。

3. z/OS には以下のコンポーネントが含まれています。これらのコンポーネントをインストールおよび設定して作動可能にする必要があります。

- Interactive System Productivity Facility (ISPF)
  - <http://www-01.ibm.com/software/awdtools/ispf/>
- 言語環境
  - <http://www-03.ibm.com/servers/eserver/zseries/zos/le/>
- RACF® またはこれに相当するセキュリティ製品
  - <http://www-03.ibm.com/servers/eserver/zseries/zos/racf/>
- IBM Communications Server の VTAM® コンポーネント
  - <http://www-01.ibm.com/software/network/commsserver/zos/>
- IBM Communications Server の IP サービス・コンポーネント
  - <http://www-01.ibm.com/software/network/commsserver/zos/>
- バインダー
- APPC (オプション)

**注:**

- ISPF クライアント・ゲートウェイをホスト・システムで使用できない場合、APPC が必須の前提条件です。
  - APPC は、z/OS 1.10 の ISPF に付属する ISPF クライアント・ゲートウェイ機能、ならびに適切な PTF を適用済みの z/OS 1.8 および 1.9 の ISPF で使用可能な ISPF クライアント・ゲートウェイ機能によって置き換えることができます。
4. ISPF クライアント・ゲートウェイ APAR OA34735 と、それより新しい APAR は、z/OS v 1.8 および v 1.9 では使用できません。Developer for System z は z/OS v 1.8 および v 1.9 で稼働しますが、これらのシステムでは、APAR OA34735 で対処された問題を修正することはできません。
5. z/OS v 1.10 および、それ以前のリリースはサポート対象外ですが、まだ Developer for System z に対して機能します。

## SMP/E

Developer for System z をインストールするには、以下のいずれかのレベルがインストールされている必要があります。

プログラム番号	製品名	必要な PTF またはサービス・レベル
5655-G44	IBM System Modification Program Extended (SMP/E) for z/OS v 3.6	必要な PTF およびサービス・レベルはなし
5655-G44	IBM System Modification Program Extended (SMP/E) for z/OS v 3.5	必要な PTF およびサービス・レベルはなし

関連製品の Web サイトは次のとおりです。

<http://www-03.ibm.com/systems/z/os/zos/smpe/>

## SDK for z/OS Java Platform, Technology Edition

Remote Systems Explorer (RSE) を使用するアプリケーションをサポートするには、ホストに以下のいずれかのレベルがインストールされている必要があります。

プログラム番号	製品名	必要な PTF またはサービス・レベル
5655-R32	IBM 64-bit SDK for z/OS, Java™ Platform, Technology Edition, v 6.0.1	最新のサービス・リリース
5655-R31	IBM 31-bit SDK for z/OS, Java Platform, Technology Edition, v 6.0.1	最新のサービス・リリース
5655-R32	IBM 64-bit SDK for z/OS, Java Platform, Technology Edition, v 6.0	最新のサービス・リリース
5655-R31	IBM 31-bit SDK for z/OS, Java Platform, Technology Edition, v 6.0	最新のサービス・リリース
5655-W43	IBM 31-bit SDK for z/OS, Java Technology Edition, v 7.0.x	最新のサービス・リリース
5655-W44	IBM 64-bit SDK for z/OS, Java Technology Edition, v 7.0.x	最新のサービス・リリース

関連製品の Web サイトは次のとおりです。

<http://www.ibm.com/servers/eserver/zseries/software/java/>

## z/OS ホストの相互必要条件

このセクションにリストしている製品および言及しているその他のソフトウェアは、IBM Rational Developer for System z の特定のフィーチャーをサポートするために必要です。これらの必要条件を満たさなくても、IBM Rational Developer for System z ワークステーション・クライアントは正常に接続し、基本的なアクションを行うことはできます。ただし、指定されたホストの必要条件が実行時にインストール済みで作動可能になっていないと、対応するフィーチャーは設計どおりに機能しません。

## z/OS

プログラム 番号	製品名	必要な PTF またはサービス・レベル
5650-ZOS	z/OS v 2.1	HLASM 必要な PTF およびサービス・レベルはなし  XL C/C++  必要な PTF およびサービス・レベルはなし  SCLM  必要な PTF およびサービス・レベルはなし  LE (PL/I)  必要な PTF およびサービス・レベルはなし  LE (COBOL) • 必要な PTF およびサービス・レベルはなし  TN3270  必要な PTF およびサービス・レベルはなし
5694-A01	z/OS v 1.13	HLASM 必要な PTF およびサービス・レベルはなし  XL C/C++  必要な PTF およびサービス・レベルはなし  SCLM  必要な PTF およびサービス・レベルはなし  LE (PL/I)  必要な PTF およびサービス・レベルはなし  LE (COBOL) • 必要な PTF およびサービス・レベルはなし  TN3270  必要な PTF およびサービス・レベルはなし

プログラム 番号	製品名	必要な PTF またはサービス・レベル
5694-A01	z/OS v 1.12	HLASM 必要な PTF およびサービス・レベルはなし XL C/C++ 必要な PTF およびサービス・レベルはなし SCLM 必要な PTF およびサービス・レベルはなし LE (PL/I) 必要な PTF およびサービス・レベルはなし LE (COBOL) <ul style="list-style-type: none"> <li> APAR PM00230 (XML 構文解析)  PTF UK61635 </li> </ul> TN3270 必要な PTF およびサービス・レベルはなし
5694-A01	z/OS v 1.11	HLASM 必要な PTF およびサービス・レベルはなし XL C/C++ 必要な PTF およびサービス・レベルはなし SCLM 必要な PTF およびサービス・レベルはなし LE (PL/I) <ul style="list-style-type: none"> <li> APAR PM22065 (XML サポート)  PTF UK60604 </li> </ul> LE (COBOL) <ul style="list-style-type: none"> <li> APAR PM00230 (XML 構文解析)  PTF UK61634 </li> </ul> TN3270 必要な PTF およびサービス・レベルはなし

プログラム 番号	製品名	必要な PTF またはサービス・レベル
5694-A01	z/OS v 1.10	<p>HLASM</p> <p>必要な PTF およびサービス・レベルはなし</p> <p>XL C/C++</p> <p>必要な PTF およびサービス・レベルはなし</p> <p>SCLM</p> <p>必要な PTF およびサービス・レベルはなし</p> <p>LE (PL/I)</p> <ul style="list-style-type: none"> <li> <p>APAR PM22065 (XML サポート)</p> <p>PTF UK60603</p> </li> </ul> <p>LE (COBOL)</p> <ul style="list-style-type: none"> <li> <p>APAR PM00230 (XML 構文解析)</p> <p>PTF UK61633</p> </li> </ul> <p>TN3270</p> <p>必要な PTF およびサービス・レベルはなし</p>
5694-A01	z/OS v 1.9	<p>HLASM</p> <p>必要な PTF およびサービス・レベルはなし</p> <p>XL C/C++</p> <p>必要な PTF およびサービス・レベルはなし</p> <p>SCLM</p> <ul style="list-style-type: none"> <li> <p>APAR OA27379 (SCLM 検索)</p> <p>PTF UA46330 + UA46331、UA46332、UA46333、UA46334 (言語に依存)</p> </li> </ul> <p>LE (PL/I)</p> <p>必要な PTF およびサービス・レベルはなし</p> <p>TN3270</p> <p>必要な PTF およびサービス・レベルはなし</p>

プログラム 番号	製品名	必要な PTF またはサービス・レベル
5694-A01	z/OS v 1.8	<p>HLASM</p> <p>必要な PTF およびサービス・レベルはなし</p> <p>XL C/C++</p> <p>必要な PTF およびサービス・レベルはなし</p> <p>SCLM</p> <ul style="list-style-type: none"> <li> <p>APAR OA21104 (通知ビルド・モード)</p> <p>PTF UA35046 + UA35056、UA35057、UA35058、または UA35059 (言語に依存)</p> </li> <li> <p>APAR OA16924 (拡張 SCLMINFO)</p> <p>PTF UA29772 + UA29922、UA29923、UA29924、または UA29925 (言語に依存)</p> </li> <li> <p>APAR OA16804 (サロゲート・ユーザー ID サポートの追加)</p> <p>PTF UA33524 + UA33533、UA33534、UA33535、または UA33536 (言語に依存)</p> </li> </ul> <p>LE (PL/I)</p> <ul style="list-style-type: none"> <li> <p>APAR PK41552 (Developer for System z に関する新規 PL/I メッセージ)</p> <p>PTF UK24482 (英語) または UK24483 (日本語)</p> </li> </ul> <p>TN3270</p> <p>必要な PTF およびサービス・レベルはなし</p>

関連製品の Web サイトは次のとおりです。

<http://www-03.ibm.com/systems/z/os/zos/>

**注:**

1. アクティブなジョブの出力を表示するためのジョブ・モニター・サポートの使用を必要とする JES3 ユーザーにとっては、JES3 v 1.10 以上が相互必要条件です。
2. Developer for System z で開発または編集したアセンブラー・プログラムをコンパイルするには、リストしているサービス・レベルのホストに高水準アセンブラー (HLASM) がインストールされている必要があります。

関連製品の Web サイトは次のとおりです。

<http://www.ibm.com/software/awdtools/hlasm/>

3. Developer for System z で開発または編集した C/C++ プログラムをコンパイルするには、リストしているサービス・レベルのホストに XL C/C++ コンパイラーがインストールされている必要があります。

関連製品の Web サイトは次のとおりです。

<http://www.ibm.com/software/awdtools/czos/>

4. SCLM Developer Toolkit をサポートするには、リストしているサービス・レベルのホストに SCLM がインストールされている必要があります。

関連製品の Web サイトは次のとおりです。

<http://www.ibm.com/software/awdtools/sclmsuite/sclm/>

注:

- APAR OA16804 が必要となるのは、セキュアなビルド、プロモート、およびデプロイを使用する場合のみです。
  - APAR OA26997 が必要となるのは、メンバーのセキュリティー・サポートを使用する場合のみです。
  - APAR OA27379 が必要となるのは、メンバーのセキュリティー・サポートまたは SCLM 検索機能を使用する場合のみです。
5. Enterprise Service Tools for PL/I をサポートするには、リストしているサービス・レベルのホストに言語環境がインストールされている必要があります。

関連製品の Web サイトは次のとおりです。

<http://www-03.ibm.com/servers/eserver/zseries/zos/le/>

6. ホスト接続エミュレーターをサポートするには、リストしているサービス・レベルのホストに TN3270 がインストールされている必要があります。TN3270 は、IBM Communications Server の IP サービス・コンポーネントの一部です。

関連製品の Web サイトは次のとおりです。

<http://www-01.ibm.com/software/network/commserver/zos/>

## COBOL コンパイラー

IBM Rational Developer for System z で開発または編集した COBOL プログラムをコンパイルするには、ホストに以下のいずれかのレベルがインストールされている必要があります。

プログラム番号	製品名	必要な PTF またはサービス・レベル
5655-W32	IBM Enterprise COBOL for z/OS v 5.1	必要な PTF およびサービス・レベルはなし
5655-S71	IBM Enterprise COBOL for z/OS v 4.2	必要な PTF およびサービス・レベルはなし



プログラム番号	製品名	必要な PTF またはサービス・レベル
5655-S71	IBM Enterprise COBOL for z/OS v 4.1	必要な PTF およびサービス・レベルはなし
5535-G53	IBM Enterprise COBOL for z/OS v 3.4	APAR PK30798 PTF UK18476

関連製品の Web サイトは次のとおりです。

<http://www.ibm.com/software/awdtools/cobol/zos/>

注: IBM Enterprise COBOL for z/OS v 4.1 は、エンタープライズ・サービス・ツールで、COBOL v 4.1 の XMLSS ベースの XML PARSE 機能を使用するコンパイラ済み XML 変換を生成するために必要です。

## PL/I コンパイラー

IBM Rational Developer for System z で開発または編集した PL/I プログラムをコンパイルするには、ホストに以下のいずれかのレベルがインストールされている必要があります。

プログラム番号	製品名	必要な PTF またはサービス・レベル
5655-W67	IBM Enterprise PL/I for z/OS v 4.3	必要な PTF およびサービス・レベルはなし
5655-W67	IBM Enterprise PL/I for z/OS v 4.2	必要な PTF およびサービス・レベルはなし
5655-W67	IBM Enterprise PL/I for z/OS v 4.1	必要な PTF およびサービス・レベルはなし
5655-H31	IBM Enterprise PL/I for z/OS v 3.9	必要な PTF およびサービス・レベルはなし
5655-H31	IBM Enterprise PL/I for z/OS v 3.8	必要な PTF およびサービス・レベルはなし
5655-H31	IBM Enterprise PL/I for z/OS v 3.7	必要な PTF およびサービス・レベルはなし

関連製品の Web サイトは次のとおりです。

<http://www.ibm.com/software/awdtools/pli/plizos/>

## Debug Tool for z/OS

Rational Developer for System z Integrated Debugger をリモート・デバッグに使用しない場合は、ホストに Debug Tool for z/OS の以下のレベルのいずれかをインストールして、リモート・デバッグを有効にする必要があります。

プログラム番号	製品名	プログラミング言語	必要な APAR、PTF またはサービス・レベル
5655-Q10	IBM Debug Tool for z/OS V13.1	COBOL、PL/I、C/C++、アセンブラー、およびその他のフィーチャー	使用可能なすべてのメンテナンス
5655-W70	IBM Debug Tool for z/OS V12.1	COBOL、PL/I、C/C++、アセンブラー、およびその他のフィーチャー	使用可能なすべてのメンテナンス
5655-W45	IBM Debug Tool for z/OS V11.1	COBOL、PL/I、C/C++、アセンブラー、およびその他のフィーチャー	使用可能なすべてのメンテナンス
5655-V50	IBM Debug Tool for z/OS V10.1	COBOL、PL/I、C/C++、アセンブラー、およびその他のフィーチャー	使用可能なすべてのメンテナンス

注: Rational Developer for System z Integrated Debugger を、コード・カバレッジ・サポートを利用するために使用せず、Debug Tool for z/OS をこの目的のために使用する場合は、Debug Tool for z/OS v11.1 以上を使用する必要があります。

注: Debug Tool for z/OS を、Rational Developer for System z で IMS™ および DB2デバッグ構成を利用するために使用する場合は、Debug Tool for z/OS V11.1 以上を使用する必要があります。

関連製品の Web サイトは次のとおりです。

<http://www.ibm.com/software/awdtools/debugtool/>

## CICS Transaction Server

組み込み CICS® ステートメントを使用するアプリケーションをサポートするには、以下のいずれかのレベルがインストールされている必要があります。

プログラム番号	製品名	必要な PTF またはサービス・レベル
5655-Y04	IBM CICS Transaction Server for z/OS v 5.1	必要な PTF およびサービス・レベルはなし
5655-S97	IBM CICS Transaction Server for z/OS v 4.2	必要な PTF およびサービス・レベルはなし
5655-S97	IBM CICS Transaction Server for z/OS v 4.1	必要な PTF およびサービス・レベルはなし
5697-E93	IBM CICS Transaction Server for z/OS v 3.2	UK34221

プログラム 番号	製品名	必要な PTF またはサービス・レベル
5697-E93	IBM CICS Transaction Server for z/OS v 3.1	UK15767、 UK15764、 UK11782、 UK11294、 UK12233、 UK12521、 UK15261、 UK15271、 UK34221、 UK34078

関連製品の Web サイトは次のとおりです。

<http://www.ibm.com/software/http/cics/tserver/>

注:

- CICS Transaction Server には、デバッグ・ツールと連携するための追加の設定が必要です。
- 組み込み CICS ステートメントのコンテンツ・アシストおよびリアルタイム構文検査には、IBM CICS Transaction Server for z/OS v 5.1 (プログラム番号 5655-Y04) のサポートが含まれます。
- IBM Rational Developer for System z v 7.6 以上のアプリケーション・デプロイメント・マネージャー、サービス・コンポーネント・アーキテクチャー、およびエンタープライズ・サービス・ツールの各フィーチャーをサポートするには、CICS Transaction Server v 4.1 以上で使用可能な RESTful インターフェースが必要です。
- CICS Transaction Server v 3.2 以上が、エンタープライズ・サービス・ツールの多数のフィーチャーをサポートするために必要です。

ランタイム要求に関する詳細がすべて記載されたリストについては、IBM Rational Developer for System z インフォメーション・センター (<http://publib.boulder.ibm.com/infocenter/ratdevz/v8r5/index.jsp>) でエンタープライズ・サービス・ツールの資料を参照してください。

- CICS Transaction Server v 3.1 (サービス UK34221 を適用) が、アプリケーション・デプロイメント・マネージャーの最小要件です。

## IMS

IMS™ データベースおよびデータ通信を使用するアプリケーションをサポートするには、ホストに以下のいずれかのレベルがインストールされている必要があります。

プログラム番号	製品名	必要な PTF またはサービス・レベル
5635-A04	IBM IMS v 13.1	必要な PTF およびサービス・レベルはなし
5635-A03	IBM IMS v 12.1	<ul style="list-style-type: none"> <li>• APAR PM43645 (IMS PL/I トップダウン・サポート用)</li> </ul>

プログラム番号	製品名	必要な PTF またはサービス・レベル
5635-A02	IBM IMS v 11.1	<ul style="list-style-type: none"> <li>• APAR PM39865 (UK71274) (IMS Connect SOAP 障害サポートおよび XML コンバーター可変最大セグメント・サイズ・サポートのための拡張に必要)</li> <li>• APAR PM39747 (PL/I トップダウン・コンバーターを使用する場合にモジュール HWSXMLA0 の IMS 接続 0C4 ABEND を修正するために必要)</li> <li>• APAR PM11648 (エンタープライズ・サービス・ツール IMS PL/I トップダウン・サポートが機能するために必要)</li> </ul>
5635-A01	IBM IMS v 10.1	必要な PTF およびサービス・レベルはなし
5655-J38	IBM IMS v 9.1	必要な PTF およびサービス・レベルはなし

関連製品の Web サイトは次のとおりです。

<http://www.ibm.com/software/data/ims/ims/>

注:

- IMS には、デバッグ・ツールと連携するための追加の設定が必要です。
- バージョン 10.1 以上の IMS、IMS Connect、および IMS SOAP Gateway がエンタープライズ・サービス・ツールには必要です。

## DB2 for z/OS

DB2 をサポートするには、ホストに以下のいずれかのレベルがインストールされている必要があります。

プログラム番号	製品名	必要な PTF またはサービス・レベル
5605-DB2	IBM DB2 for z/OS v 10.1	PTF UK91146
5635-DB2	IBM DB2 for z/OS v 9.1	必要な PTF およびサービス・レベルはなし
5625-DB2	IBM DB2 Universal Database™ for z/OS v 8.1	必要な PTF およびサービス・レベルはなし

関連製品の Web サイトは次のとおりです。

<http://www.ibm.com/software/data/db2/zos/>

## Rational Team Concert

Developer for System z リモート・プロジェクトを使用して Jazz ベースのソース制御を行うには、以下のレベルがインストールされている必要があります。

プログラム番号	製品名	必要な PTF またはサービス・レベル
5724-V04	Rational Team Concert v 4.0.3 以上	必要な PTF およびサービス・レベルはなし

関連製品の Web サイトは次のとおりです。

<http://www-01.ibm.com/software/rational/products/rtc/>

## File Manager

IBM File Manager plug-in for Eclipse は、File Manager サーバーを使って、File Manager サービスにアクセスします。このサーバーへのインストールに関する指示については、File Manager ホストの資料を参照してください。関連製品の Web サイトは次のとおりです。

<http://www-01.ibm.com/software/awdtools/filemanager/>

## REXX

SCLM Developer Toolkit またはデータ・セットの統計を収集するために改良されたメソッドを使用するには、ホストに以下のいずれかのレベルがインストールされている必要があります。

プログラム番号	製品名	必要な PTF またはサービス・レベル
5695-014	IBM Library for REXX on zSeries v 1.4	必要な PTF およびサービス・レベルはなし
5695-014	IBM Library for REXX on zSeries Alternate Library v 1.4.0 (FMID: HWJ9143、JWJ9144)	必要な PTF およびサービス・レベルはなし

REXX/370 Alternate Library のバージョンは、以下の製品 Web サイトから入手可能です。

<http://www.ibm.com/software/awdtools/rexx/rexxzseries/>

## Ported Tools

SCLM Developer Toolkit で *sftp* または *scp* を使用してセキュアなデプロイメントを行うには、(z/OS UNIX に) IBM Ported Tools for z/OS をインストールする必要があります。

IBM Ported Tools for z/OS のバージョンは、以下の製品 Web サイトから入手可能です。

[http://www-03.ibm.com/servers/eserver/zseries/zos/unix/port\\_tools.html](http://www-03.ibm.com/servers/eserver/zseries/zos/unix/port_tools.html)

## Ant

SCLM Developer Toolkit で Java EE ビルドを行うには、Apache Ant が (z/OS UNIX に) インストールされている必要があります。

Apache Ant は、製品の Web サイトからダウンロードできる Java EE に基づいたオープン・ソース・ビルド・ツールです。

<http://ant.apache.org/>

## Endevor®

CA Endevor® Software Change Manager に対する Developer for System z インターフェースを使用するには、CA Endevor® SCM リリース 14 以降をインストールする必要があります。

CA Endevor® Software Change Manager リリース 12 は、今後サポートされません、引き続き動作します。CA サポートを必要とする問題が起きた場合は、新しいリリースにアップグレードする必要があります。

注: Developer for System z で要素の依存性に関するリストを取得するためには、CA Endevor SCM の Automated Configuration Manager アドオン製品が必要です。このリストがないと、コンテンツ・アシストおよびその他の Developer for System z 機能は制限されます (Automated Configuration Manager は ACM または ASCM と呼ばれることもあります)。

CA Endevor® SCM は、CA Technologies の製品です。関連製品の Web サイトは次のとおりです。

<http://www.ca.com/us/products/product.aspx?ID=259>

## z/OS Automated Unit Testing Framework

IBM z/OS Automated Unit Testing Framework (zUnit) コンポーネントには、IBM XML Toolkit for z/OS (V1.10) が必要です。

関連製品の Web サイトは次のとおりです。 <http://www-03.ibm.com/systems/z/os/zos/tools/xml/>.

## IMS 同期コールアウトの COBOL トップダウン

EST/XSE バッチ・プロセッサは、IMS 同期コールアウト (COBOL トップダウンとも呼ばれます) の限定 COBOL トップダウンをサポートするために拡張されます。

- Enterprise COBOL バージョン 4 リリース 1 は、必要な最小レベルです。Enterprise COBOL バージョン 4 リリース 2 を推奨します。
- IMS バージョン 11 以上と IMS Connect が必要です。
- IMS Enterprise Suite SOAP ゲートウェイ 2.2 が必要です。

## AIX、Linux on System z、および Intel Linux ホストの前提条件

本書の公開時点では、このセクションにリストされている製品はすべて入手可能です。特定の IBM 製品に関連する Developer for System z 機能を使用する必要がある場合は、IBM Software Support Lifecycle Web サイト (<http://www.ibm.com/software/support/lifecycle/>) を参照して、その製品がまだ入手可能かどうかを確認してください。

最新の前提条件および相互必要条件のリストは、「*Developer for System z 前提条件ガイド*」(SC88-4704) に記載されています。この資料は、IBM Rational Developer for System z の Web サイトのライブラリー・ページ (<http://www-01.ibm.com/software/awdtools/rdz/library/>) から入手可能であり、本書にリストされている要件に取って代わるものです。

### AIX ホストの前提条件

AIX® ホスト・サポートは Rational Developer for AIX and Linux バージョン 9.0 製品の一部として提供されます。サポートされている AIX リリースおよび他の必要なソフトウェアのリストについては、Rational Developer for AIX and Linux の前提条件情報を参照してください。Rational Developer for System z と Rational Developer for AIX and Linux を同じパッケージまたはシェルにインストールすると、パースペクティブが使用可能になり、ユーザーは両方の製品に固有のプロジェクトを統合的に処理できるようになります。

### Linux on System z ホストの前提条件

#### Linux on System z

以下のいずれかのレベルがインストールされている必要があります。

製品名
Red Hat Linux Enterprise Server 6 (s390x)
SUSE Linux Enterprise Server 11 (s390x)

注:

Linux on System z プロジェクトに対するリモート (ホスト・ベースの) アクションを行うには、REXEC または SSH がホスト上でアクティブになっている必要があります。

関連製品の Web サイトは次のとおりです。

<http://www-03.ibm.com/systems/z/os/linux/>

#### SDK for Linux on System z, Java Platform, Enterprise Edition

Linux on System z で Remote Systems Explorer (RSE) を使用するには、以下のいずれかのレベルがインストールされている必要があります。

製品名	必要なサービス・レベル
IBM 64 bit Runtime Environment for Linux on System z, Java Platform, Enterprise Edition バージョン 7	最新のサービス・リリース
IBM 64 bit Runtime Environment for Linux on System z, Java Platform, Enterprise Edition バージョン 6	最新のサービス・リリース

関連製品の Web サイトは次のとおりです。

<http://www.ibm.com/developerworks/java/jdk/linux/>

**重要:** 64 ビット・バージョンがサポートされます。

## Intel Linux ホストの前提条件

### Intel Linux

以下のいずれかのレベルがインストールされている必要があります。

製品名
Red Hat Linux Enterprise 6
SUSE Linux Enterprise Server 11

### SDK for Linux on Intel, Java Platform, Enterprise Edition

Intel Linux で Remote Systems Explorer (RSE) を使用するには、以下のいずれかのレベルがインストールされている必要があります。

製品名	必要なサービス・レベル
IBM 32-bit Runtime Environment for Linux on Intel architecture, Java Platform, Enterprise Edition バージョン 7	最新のサービス・リリース
IBM 32-bit Runtime Environment for Linux on Intel architecture, Java Platform, Enterprise Edition バージョン 6	最新のサービス・リリース

関連製品の Web サイトは次のとおりです。

<http://www.ibm.com/developerworks/java/jdk/linux/>

**重要:** 64 ビット・バージョンはサポートされません。



---

## IBM Rational Developer for System z についての特記事項

© Copyright IBM Corporation 2009, 2013.

本書は米国 IBM が提供する製品およびサービスについて作成したものです。

本書に記載の製品、サービス、または機能が日本においては提供されていない場合があります。日本で利用可能な製品、サービス、および機能については、日本 IBM の営業担当員にお尋ねください。本書で IBM 製品、プログラム、またはサービスに言及していても、その IBM 製品、プログラム、またはサービスのみが使用可能であることを意味するものではありません。これらに代えて、IBM の知的所有権を侵害することのない、機能的に同等の製品、プログラム、またはサービスを使用することができます。ただし、IBM 以外の製品とプログラムの操作またはサービスの評価および検証は、お客様の責任で行っていただきます。

IBM は、本書に記載されている内容に関して特許権 (特許出願中のものを含む) を保有している場合があります。本書の提供は、お客様にこれらの特許権について実施権を許諾することを意味するものではありません。実施権についてのお問い合わせは、書面にて下記宛先にお送りください。

〒103-8510

東京都中央区日本橋箱崎町19番21号

日本アイ・ビー・エム株式会社

法務・知的財産

知的財産権ライセンス渉外

以下の保証は、国または地域の法律に沿わない場合は、適用されません。IBM およびその直接または間接の子会社は、本書を特定物として現存するままの状態を提供し、商品性の保証、特定目的適合性の保証および法律上の瑕疵担保責任を含むすべての明示もしくは黙示の保証責任を負わないものとします。国または地域によっては、法律の強行規定により、保証責任の制限が禁じられる場合、強行規定の制限を受けるものとします。

この情報には、技術的に不適切な記述や誤植を含む場合があります。本書は定期的に見直され、必要な変更は本書の次版に組み込まれます。IBM は予告なしに、随時、この文書に記載されている製品またはプログラムに対して、改良または変更を行うことがあります。

本書において IBM 以外の Web サイトに言及している場合がありますが、便宜のため記載しただけであり、決してそれらの Web サイトを推奨するものではありません。それらの Web サイトにある資料は、この IBM 製品の資料の一部ではありません。それらの Web サイトは、お客様の責任でご使用ください。

IBM は、お客様が提供するいかなる情報も、お客様に対してなんら義務も負うことのない、自ら適切と信ずる方法で、使用もしくは配布することができるものとします。

本プログラムのライセンス保持者で、(i) 独自に作成したプログラムとその他のプログラム (本プログラムを含む) との間での情報交換、および (ii) 交換された情報の相互利用を可能にすることを目的として、本プログラムに関する情報を必要とする方は、下記に連絡してください。

*Intellectual Property Dept. for Rational Software*  
*IBM Corporation*  
*5 Technology Park Drive*  
*Westford, MA 01886*  
*U.S.A.*

本プログラムに関する上記の情報は、適切な使用条件の下で使用することができませんが、有償の場合もあります。

本書で説明されているライセンス・プログラムまたはその他のライセンス資料は、IBM 所定のプログラム契約の契約条項、IBM プログラムのご使用条件、またはそれと同等の条項に基づいて、IBM より提供されます。

この文書に含まれるいかなるパフォーマンス・データも、管理環境下で決定されたものです。そのため、他の操作環境で得られた結果は、異なる可能性があります。一部の測定が、開発レベルのシステムで行われた可能性があります。その測定値が、一般に利用可能なシステムのものと同じである保証はありません。さらに、一部の測定値が、推定値である可能性があります。実際の結果は、異なる可能性があります。お客様は、お客様の特定の環境に適したデータを確かめる必要があります。

IBM 以外の製品に関する情報は、その製品の供給者、出版物、もしくはその他の公に利用可能なソースから入手したものです。IBM は、それらの製品のテストは行っておりません。したがって、他社製品に関する実行性、互換性、またはその他の要求については確証できません。IBM 以外の製品の性能に関する質問は、それらの製品の供給者にお願いします。

IBM の将来の方向または意向に関する記述については、予告なしに変更または撤回される場合があります、単に目標を示しているものです。

本書はプランニング目的としてのみ記述されています。記述内容は製品が使用可能になる前に変更になる場合があります。

本書には、日常の業務処理で用いられるデータや報告書の例が含まれています。より具体性を与えるために、それらの例には、個人、企業、ブランド、あるいは製品などの名前が含まれている場合があります。これらの名称はすべて架空のものであり、名称や住所が類似する企業が実在しているとしても、それは偶然にすぎません。

## 著作権使用許諾

本書には、様々なオペレーティング・プラットフォームでのプログラミング手法を例示するサンプル・アプリケーション・プログラムがソース言語で掲載されています。お客様は、サンプル・プログラムが書かれているオペレーティング・プラットフォームのアプリケーション・プログラミング・インターフェースに準拠したアプリケーション・プログラムの開発、使用、販売、配布を目的として、いかなる形式

においても、IBM に対価を支払うことなくこれを複製し、改変し、配布することができます。このサンプル・プログラムは、あらゆる条件下における完全なテストを経ていません。従って IBM は、これらのサンプル・プログラムについて信頼性、利便性もしくは機能性があることをほのめかしたり、保証することはできません。サンプル・プログラムは、現存するままの状態を提供され、いかなる保証条件も適用されません。IBM は、お客様の当該サンプル・プログラムの使用から生ずるいかなる損害に対しても一切の責任を負いません。

それぞれの複製物、サンプル・プログラムのいかなる部分、またはすべての派生的創作物にも、次のように、著作権表示を入れていただく必要があります。

© (お客様の会社名) (西暦年). このコードの一部は、IBM Corp. のサンプル・プログラムから取られています。© Copyright IBM Corp. 2009, 2012.

この情報をソフトコピーでご覧になっている場合は、写真やカラーの図表は表示されない場合があります。

## 商標の帰属表示

IBM、IBM ロゴおよび ibm.com は、世界の多くの国で登録された International Business Machines Corp. の商標です。他の製品名およびサービス名等は、それぞれ IBM または各社の商標である場合があります。現時点での IBM の商標リストについては、[www.ibm.com/legal/copytrade.shtml](http://www.ibm.com/legal/copytrade.shtml) をご覧ください。

Adobe、Adobe ロゴ、PostScript、PostScript ロゴは、Adobe Systems Incorporated の米国およびその他の国における登録商標または商標です。

Linux は、Linus Torvalds の米国およびその他の国における商標です。

Windows は Microsoft Corporation の米国およびその他の国における商標です。

UNIX は The Open Group の米国およびその他の国における登録商標です。

Java およびすべての Java 関連の商標およびロゴは Oracle やその関連会社の米国およびその他の国における商標または登録商標です。

他の製品名およびサービス名等は、それぞれ IBM または各社の商標である場合があります。

---

## 著作権使用許諾

本書には、様々なオペレーティング・プラットフォームでのプログラミング手法を例示するサンプル・アプリケーション・プログラムがソース言語で掲載されています。お客様は、サンプル・プログラムが書かれているオペレーティング・プラットフォームのアプリケーション・プログラミング・インターフェースに準拠したアプリケーション・プログラムの開発、使用、販売、配布を目的として、いかなる形式においても、IBM に対価を支払うことなくこれを複製し、改変し、配布することができます。このサンプル・プログラムは、あらゆる条件下における完全なテストを経ていません。従って IBM は、これらのサンプル・プログラムについて信頼性、利便性もしくは機能性があることをほのめかしたり、保証することはできません。サンプル・プログラムは、現存するままの状態を提供され、いかなる保証条件も適

用されません。IBM は、お客様の当該サンプル・プログラムの使用から生ずるいかなる損害に対しても一切の責任を負いません。

---

## 商標の帰属表示

IBM、IBM ロゴおよび [ibm.com](http://ibm.com) は、世界の多くの国で登録された International Business Machines Corp. の商標です。他の製品名およびサービス名等は、それぞれ IBM または各社の商標である場合があります。現時点での IBM の商標リストについては、[www.ibm.com/legal/copytrade.shtml](http://www.ibm.com/legal/copytrade.shtml) をご覧ください。

CA Endeavor は、CA Technologies の登録商標です。

Intel および Pentium は、Intel Corporation または子会社の米国およびその他の国における商標または登録商標です。

Microsoft、Windows および Windows ロゴは、Microsoft Corporation の米国およびその他の国における商標です。

Java およびすべての Java 関連の商標およびロゴは、Oracle, Inc. の米国およびその他の国における商標または登録商標です。

UNIX は The Open Group の米国およびその他の国における登録商標です。

# 索引

日本語, 数字, 英字, 特殊文字の順に配列されています。なお, 濁音と半濁音は清音と同等に扱われています。

## [ア行]

オペレーティング・システム

サポート 4  
要件 4

## [サ行]

サポート

オペレーティング・システム 4

前提条件

オペレーティング・システム 4

ソフトウェア 4, 5

特権 7

ハードウェア 3

ブラウザー 6

ホスト 7

ユーザー特権 7

ワークステーション 3

Acrobat Reader 6

Adobe Acrobat Reader 6

AIX 23

DB2 Connect 5

Intel Linux 24

Linux on System z 23

SMP/E 10

Web ブラウザー 6

相互必要条件

ホスト 11

Ant 22

Apache Ant 22

CICS Transaction Server 18

COBOL コンパイラー 16

DB2 20

Debug Tool 17

Fault Analyzer 7

File Manager 21

File Manager、クライアント 6

IMS 19

Java Platform, Technology Edition 11

PL/I コンパイラー 17

Ported Tools 21

Rational Team Concert for 21

Rational Team Concert for System z 6

REXX 21

相互必要条件 (続き)

SDK for z/OS 11

z/OS 12

ソフトウェア

前提条件 4, 5

要件 4, 5

## [ハ行]

ハードウェア

前提条件 3

要件 3

ブラウザー

前提条件 6

ホスト

前提条件 7

ホストの相互必要条件 11

ホストの前提条件 7

## [ヤ行]

ユーザー特権 7

要件

オペレーティング・システム 4

ソフトウェア 4, 5

特権 7

ハードウェア 3

ユーザー特権 7

## [ワ行]

ワークステーション

前提条件 3

## A

Acrobat Reader

前提条件 6

Adobe Acrobat Reader

前提条件 6

AIX

前提条件 23

Ant

相互必要条件 22

Apache Ant

相互必要条件 22

## C

CICS Transaction Server

相互必要条件 18

COBOL コンパイラー

相互必要条件 16

## D

DB2

相互必要条件 20

DB2 Connect

前提条件 5

Debug Tool

相互必要条件 17

## F

Fault Analyzer

相互必要条件 7

File Manager

相互必要条件 21

File Manager、クライアント

相互必要条件 6

## I

IMS

相互必要条件 19

Intel Linux

前提条件 24

## J

Java Platform, Technology Edition

相互必要条件 11

## L

Linux on System z

前提条件 23

## P

PL/I コンパイラー

相互必要条件 17

Ported Tools

相互必要条件 21

## R

Rational Team Concert

相互必要条件 21

Rational Team Concert for System z

相互必要条件 6

REXX

相互必要条件 21

## S

SMP/E

前提条件 10

## T

TN3270 16

## W

Web ブラウザー

前提条件 6

## Z

z/OS

相互必要条件 12

z/OS 相互必要条件

言語環境 16

高水準アセンブラー 15

C/C++ 16

SCLM 16

z/OS ホスト

前提条件 7

z/OS ホストの前提条件 7





Printed in Japan

SC88-4704-04



日本アイ・ビー・エム株式会社

〒103-8510 東京都中央区日本橋箱崎町19-21